

小林由美『超一極集中社会アメリカの暴走』(新潮社, 2017年)を素材に, アメリカ資本主義の変容=ポスト冷戦段階を考察する。

明治学院大学平和研究所・前国際学部教授 涌井秀行

論点① AI (Artificial Intelligence) 人工知能とは、人工的にコンピュータ上などで人間と同様の知能を実現させようという試み。

例: IBM Watson 世界 49 カ国、25 以上の業種で活躍中

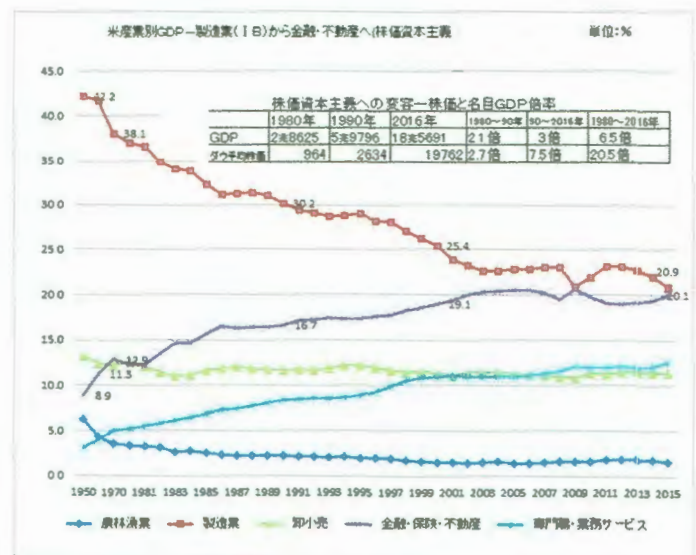
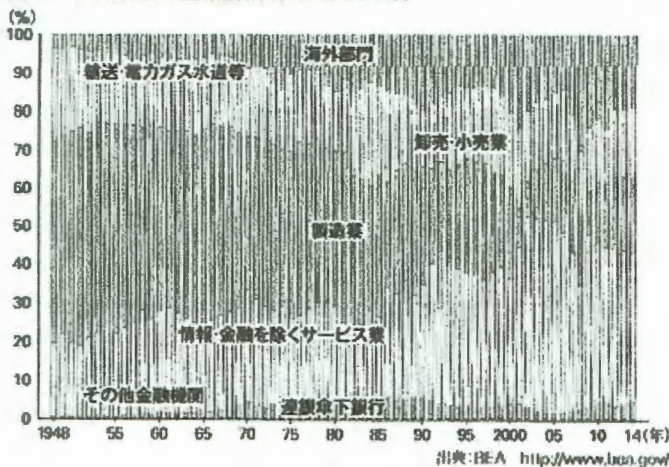
具体事例: ①-1 「RSNA (北米放射線学会) 2015」 「IBM Watson」 ガンなどの名医の画像診断→画像認識精度, ①-2 「AlphaGo (アルファ碁)」 Google 社傘下の DeepMind 社

①-3 日立造船ごみ焼却 (=発電) システムの最適運転手法をモデル化 *書籍ではGoogleの資料* →この仕組みの詳細徐実 これをどう考え評価するか

論点② (小見出し) 「実は復活しているアメリカ製造業」

「国内回帰の先に・・・AI・・・労働者が戻ってくるわけでもない」実は復活していない製造業
変容したポスト冷戦期のアメリカ資本主義 →製造業から金融・株価資本主義

図17 企業利益の産業別構成(1948-2014年)



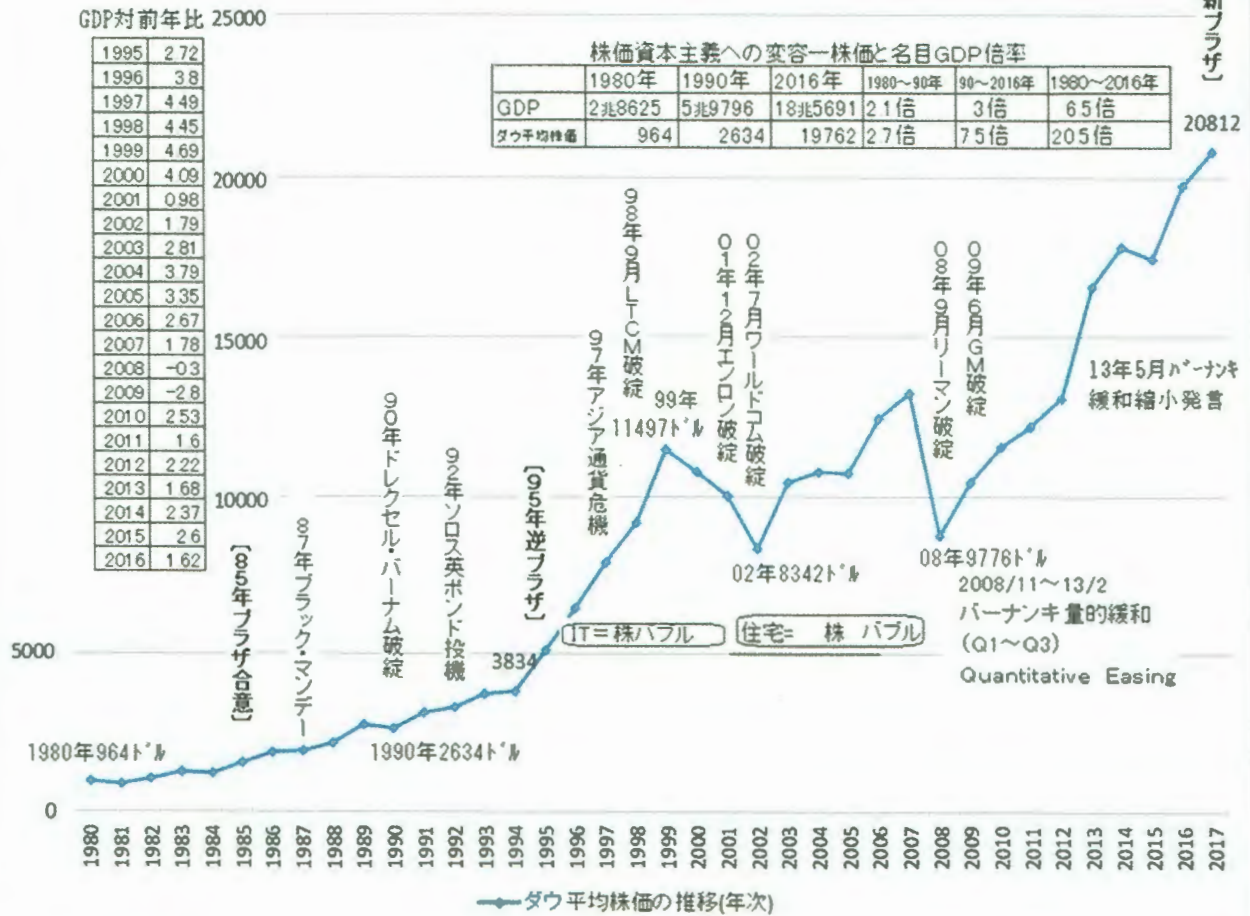
II. 特異な半世紀としての 冷戦時代—200年間の歴史の中で—

1. 戦後世界の成長と停滞
2. 資本主義体制構築・維持のためのドル散布 (援助と直接投資)
——軍事インフレ成長メカニズムとしての「世界ケインズ政策」——
3. 戦後アメリカ製造業衰退要因としての軍産複合体=軍事産業

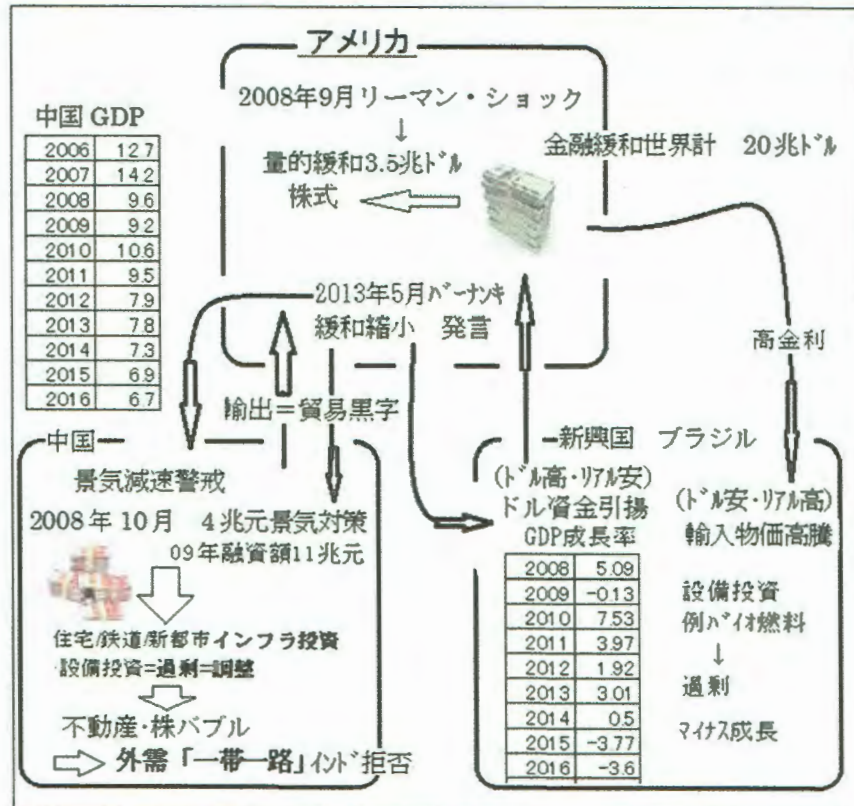
III. アメリカ民間産業「復活」のレシピと株価資本主義への変容

1. アメリカ株価資本主義の序幕
2. 株価資本主義の山場——不動産バブル崩壊から世界金融恐慌へ

ダウ平均株価の推移(年次) 単位:ドル



IV. まとめ—特異な半世紀としての冷戦時代とその帰結としてのアメリカ株価資本主義



世界金融反革命=金融による世界収奪